

陳情第 1 7 5 号	受理年月日	令和 2 年 5 月 2 8 日
付託委員会	教 育 文 化 委 員 会	
件 名	北九州市の学校における I C T 環境の整備及びオンライン授業の活用について	
要 旨	<p>これまで北九州市では、学校における I C T 環境の整備などの議論は行われていたが、他都市と比べるとスピード感はなく、現状として改革は進んでいない。</p> <p>そして、新型コロナウイルス感染症が北九州市でも猛威を振るい、教育の場に大きな影響をもたらした。第 2 波、第 3 波により再び学校での授業がストップしてしまう可能性もあり、リスクに備える必要がある。</p> <p>北九州市は、S D G s 未来都市のトップランナーであるはずだ。S D G s 未来都市を声高に叫び、質の高い教育を市民に率先して届けるためには、抜本的な解決策が必要である。</p> <p>この北九州市の未来を担う子供たちに多様な学び方を提供するため、下記のとおり措置していただきたい。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 5 月 1 日に可決された補正予算のうち、感染症に強い教育環境のオンライン化の事業内容は、カウンセラー等と子供とのオンライン相談の整備に要する経費であり、予算規模は 3,000 万円と非常に小さく、感染症に強い教育環境の構築には到底足りない。このため、更なる教育環境の整備のための予算を追加すること。</p> <p>2 休校期間中、小・中学生は、一部の私立学校の児童生徒を除いて自宅でのプリント学習となっていたが、第 2 波、第 3 波等の予測不能の事態に備えて、市内の全小・中学生へタブレットを配布すること。</p> <p>また、ユーチューブやゲーム等に没頭するなど、自主学習の習慣がついていない小・中学生もいることから、教員が児童生徒の学習や課題を管理できるようにした上で授業を行えるようにすること。</p> <p>3 学校再開後も、新たなツールを使い、多様な学び方ができるよう I C T を活用し、教員が児童生徒の学習状況を把握しながらサポートす</p>	

る体制をつくること。

また、教員によってはICTのスキルに差があるため、ICTのサポートスタッフの増員や、Googleやマイクロソフトなどの活用を検討すること。

- 4 遠隔教育の教育効果は、対面による教育と比較すると限定的であり、使い方次第で新たな学力格差が生まれるという研究結果があるため、通常時は対面授業を主としつつ、足りない部分をICTで補うような授業となるよう検討すること。